

① 民間ビルを活用した親子広場事業(中区)

坪山 清美 中区サービス課 子ども家庭支援担当
則松 純子 中区サービス課 子ども家庭支援担当

① 現代の子育て事情と中区の子育て

日養育者と子どもを取り巻く環境は日々目まぐるしく変化し、子育てのしづらいつらいつ時代と言われています。サービス課子ども家庭支援担当の電話にも「越してきたばかりで友達や相談する人がいない。」「公園デビューに失敗して出かけるところが無い。」「育児書のように子どもが育たない。」「子どもと二人でいるのが苦痛。」等さまざまな電話や相談が入ります。①核家族化、②少子化、③地域のコミュニティの減少、④情報の過多、もしくは本当に必要な情報の不足、⑤人間関係の複雑化、⑥価値観の多様化：毎日、戸惑いながら奮闘している親子の姿が浮かびます。

その中でも中区は、官公庁が集積するビジネス街や国際貿易港を抱え、横浜市の中心区として育ってきた街です。近年マンション建設が進み、少しずつですが子どもの人口は増加しています。しかし人口の流動性も高く、年間約2割の人が転入の届出を出し、さらに外国籍の人が人口の約1割を占めています。中心地には繁華街があり、海岸部には工業地帯が広がり、その中に3つの丘

を中心に住宅地が広がります。そのような中でさまざまな生活様式を営む人たちがおり、養育者が抱える問題も育児のみでなく、経済問題、住居問題、人間関係、健康問題など複雑な要素を含んでいる場合があります。

② 養育者の声

そ こで、子育て中のお母さんたちには「今困っていることは何ですか?」と尋ねたところ「もっと私たちが気軽に集まれる場所がほしい」という意見が出されました。小さい子どもと出かけると「うるさい」「チョロチョロして危ない」「物を汚す、壊す」と怒られることも多く、母親も周りの人に迷惑をかけているのではないかと気になり、なかなか安心して出かけられる場所がないという状況でした。また相談者もなく、孤独な育児に疲れてしまふ、子どもを育てることに不安が強いとの話もありました。

③ 中区の重点施策として 区づく

そ のような現状を踏まえ、中区では子どもに対する支援の充

実を15年度区政運営方針の柱の一つに定め、子育て広場を設ける事になりました。これにより、子育て中の人たちが身近な場所が集え、子育て支援の中心となる活動場所の設置を目標とした広場の構想ができました。

この広場は

- ① いつでも誰でも利用できる。
 - ② いつ来ても誰かがいる。
 - ③ 子育てを助けてくれる情報がある。
- を基本コンセプトに中区の中心に子育ての活動拠点を作り、地域にも養育者と子どもの集える場所を広げていこうというものです。

④ 場所の選定

中 区で子育てをしている人が来やすい場所「バス、地下鉄、JR線が利用できる」「ベビーカーを使っても移動しやすい」ということで、中心部である関内周辺をターゲットに絞り、いくつかの会場を見て回りました。中区はビジネス街で家賃も高く、頭を悩ませましたが「子どもと養育者に是非必要な場所として中区が公共の場として使いたい」とお願いと、どのオーナーの方も快く相談に乗っていただけま

した。その中で区民の方にわかりやすい場所、ビルの名称という事で「関内駅前セルテ」に決定しました。

⑤ 民営体制づくり

中 区子育て広場の運営は区づくりに推進費の予算を執行しています。家賃や部屋の改造費用は区役所からの直接執行としましたが、運営に関わる協力謝金や消耗品の運営費用は運営委員会に交付し、そこに従事するスタッフが管理すること

⑥ 多くの区民に支えられる活動

開 設にあたっては区内在住の大学教授からの協力の申し出もあり室内設計から改装に至る専門的支援も受けることができました。運営は区民が主体的に行い、区役所は



相談のりながら支援する形をとっています。子育て広場には、毎日温かく受付をしている区民スタッフが常時2人います。スタッフは、現在総勢80人でローテーションを組んでいます。スタッフの年齢は、20代の学生から70代の方までの女性の方が大半ですが、男性も一人います。

区民スタッフメンバーは以前から子育て支援を区内で行なっている保育ボランティア(32人)、障害児サポートボランティア(10人)、主任児童委員(21人)、公募による個人登録スタッフ(17人)で、平日、曜日がわりで、受付、情報提供等を行なっています。月1回のスタッフ会議で、ローテーション、日々の運営を話し合い決定しています。区民スタッフがわからないことは区役所のサービスク、地域振興課、福祉保健課が連絡を取り合い支援しています。広場を運営するために、スタッフ

の仕事としては①午前9時半から午後4時30分までの受付や掃除、②消耗品購入、おもちゃ整理、③イベント企画、ボランティア調整、④情報収集、情報発信、⑤子育て相談、⑥会計の仕事があります。運営を円滑に行なうために、組織を管理部門、企画部門、情報部門、相談部門、障害部門の5部門と会計にわけました。スタッフは、各自が得意とする部門にわかれて運営しています。今年度はスタッフがローテーションの中で広場に参加している日に工夫して、部屋の装飾やイベントの手伝い等のできる範囲で主体的に行なっています。

スタッフ以外にボランティアとい

う形で、短時間、都合のつく時に、絵本の読み聞かせや手遊び、パソコン入力など11分野に分かれ活躍しているボランティアが現在78人登録しています。スタッフとして半日の拘束時間の大変な方や、子供をつれて利用者として広場に来た時に絵本を自分の子供だけでなく、他の子供にも読んでみたいという利用者がボランティアとして活躍しています。いずれ、スタッフになる利用者もでてくることでしょう。

7 利用状況

中 区子育て広場 のんびりんこ」は多くの協力者の手を得

て昨年10月27日にオープンしまし

た。オープン以降、毎日平均47人。月平均950人の方が利用しています。区内だけでな



く、近隣区からも一割の利用があります。国籍も韓国、中国、アメリカ、インドと多様で、父親や祖父母の利用もわずかですがあります。オムツ換えのみ15分の利用から、お弁当持参で3時間ほど過ごす人もいます。0から2歳児の利用がほとんどです。そして障害を持っているお子さんも遊びにきています。また「のんびりんこ」の行き帰りにシヨッピングを楽しんだり、食事やおやつの間を持ったりとそれぞれの時間を楽しむ方も多いようです。アンケートからは、関内に遊び場ができてよかった。リラククスできた。暖かい感じがした。などの声が寄せられています。

8 課題と将来展望

運 営面では、スタッフやボランティアが多くなり、個々の連絡調整が難しくなってきたこと、

一人のスタッフが仕事を抱えこんでしまうことなどの課題が生じてきています。予算面では、中区の「区づくり推進費」の枠内で運営していますが今後長期継続していくためには安定した予算措置の必要も大きな課題となります。いずれにしてもスタートしたばかりの施設なので、区民と区民、区民と行政の役割分担をめぐる認識のギャップなどまだまだ試行錯誤の段階であり、利用される方々の子育てに関する要望や情報を得て、今後の支援策の検討にも活かしていきたいと思えます。今後は行政主導の子育て支援だけではなく、子育て中の人に限らず幅広い年齢層にわたる区民の協力を得て、次世代を育成するための協働による事業の展開への仕組みづくりが必要であると感じています。